



第15回 空間デザインコンペティション
自然のなかのロッジに生きるガラス質

窓辺の輪郭



■ 不透明な素材 □ 透明な素材

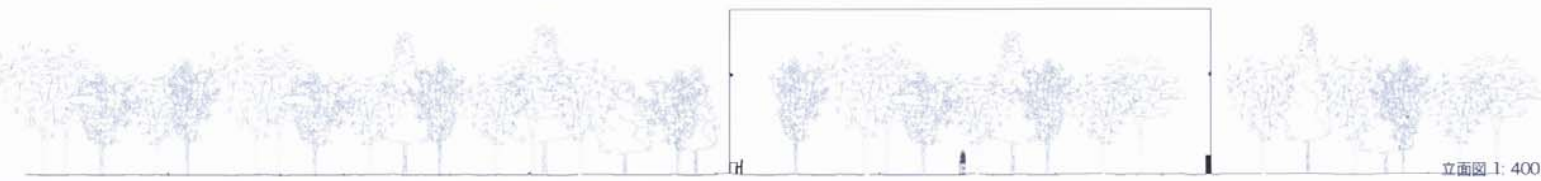
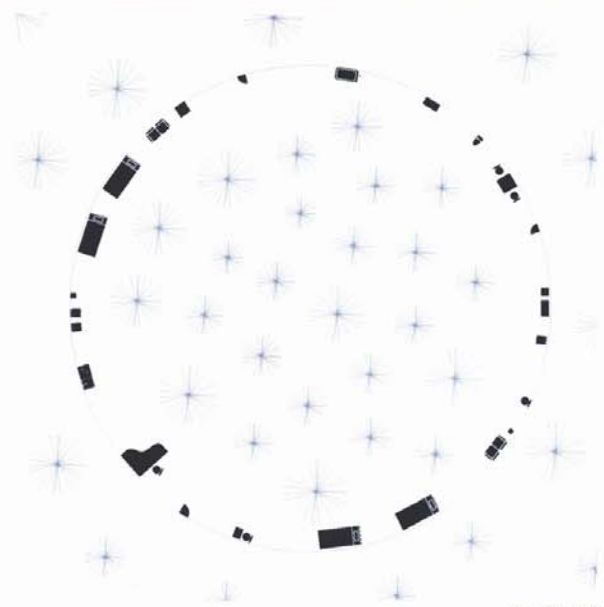
深い森のなかに、ふわりと浮かび上がった、家具の窓辺のような輪郭をもつガラス質のロッジをつくる。

建築におけるガラス質は窓ガラスに代表されるように、不透明な素材に囲われている。そして、壁に開けられた窓ガラスをつぶさないように、家具を配置することがほとんどだ。

しかし、自然のなかに建つ場合、そのような建ちかた、配置のしかたは、その不透明な素材による輪郭の力強さゆえに、豊かな景観を汚してしまうだろうし、窓のそばに置かれた椅子にすわって眺める景色はトリミングされていて、ちいさく遠い。

そこで、森の樹々を包みこむように、全身をかぎりなく透明に近いガラス質で囲った、隅のないおおきなロッジを考えた。ロッジにある家具や照明は、壁に窓をあけるように、壁面に添いながら弧を描いて配置し、真ん中には箱庭のような森をつくる。ロッジの際では、旅人がくりひろげる窓辺の生活が、輪郭をいろいろ、ロッジの中央では、濃と静まりかえった樹々が、窓辺を絶えず見守っている。

森のペールをまとった家具と、家具のペールをまとった森。
それをやわらかく包みこむガラス質のなかで旅のひとときを憩おうと、ドアを開ける音がした。



太陽が沈めば、高く取り付けられた照明が家具や森をぼんやりとライトアップする